

I. 自己評価

(1) 生徒指導

①規範意識の向上

- ・毎日の生活ノートや業間の声かけなど、生徒とコミュニケーションをとる中で、生徒の気持ちを理解しようと努め、よいところを認めながら、落ち着いた学校生活が送れるよう取り組んだ。
- (ア) ほとんどの生徒が服装等のきまりを守っている。しかし、髪型やピアスについての指導が数件あった。また、朝、遅刻をする生徒が多くなってきているので、時間を意識して行動していくよう声かけをしていきたい。
アンケート結果では86%（-4%）の生徒がルールの大切さを実感し、生活できている。
- (イ) 話が聞けない、感情をコントロールできないなど配慮が必要な生徒と周りの生徒とのコミュニケーション不足によるトラブルが増加している。個々に応じた粘り強い指導を続けている。
- (ウ) 下校指導での声かけを継続している。狭い道での並走や帰り道に集団でたまって暗くなるまで時間を過ごすなど地域から苦情が寄せられている現状もある。今後も、関係機関やPTAとも協力しながら、教職員全体で取り組んでいく必要がある。
- (エ) SNS など顔を合わせないネット上でのトラブルが数件あった。学校に携帯電話持ち込み許可を申請している生徒は全体の45%程度だが、家庭での使用状況も含めると、もっと多くの生徒がネット使用可能環境で過ごしている。トラブルの未然防止としての道徳や情報教育講演会、警察と連携した非行防止教室、集会での注意喚起などを継続していく。また、保護者への意識付けをする機会も必要である。

②生徒指導体制の充実

- ・生徒の健全育成に組織的に取り組んだ。
- (ア) 毎週木曜日1限目に生徒指導・いじめ未然防止委員会を開催し、情報交換や指導の方向性の共有をすることができた。また、学年を越えた共通理解や連携もできた。
教職員全員が同一歩調で指導することができるようにするため、年度当初にしっかりと共通認識をし、リアルタイムでの情報共有を心がけていくことが大切である。また、定期的に自分たちの指導や、対応がどうであったかを振り返り、確認することも大切である。
- (イ) 学級経営では学年方針のもと、担任を中心に学年団全体で協力して行っている。また、学校行事では、クラスが団結して達成感が感じられるものを工夫し、実施している。
アンケート結果では、「学校は楽しい」項目が生徒84%（-2%）であり、全体の雰囲気はおおむね落ち着いている。
- (ウ) 各学年ともに不登校傾向の生徒がいる。毎月末に不登校対策委員会を開催し、全学年の情報を共有している。別室「たんぼぼルーム」での指導を中心に、学年団と連携しながら、具体的な対応策を模索し実行している。「小さなサインを見逃さない」「初期対応に気をつける」「情報共有を密に行う」ことなどの取り組みを学年や学校全体で進めている。

【今後の課題】

- ・大きな問題行動はほとんどないが、トラブルに直面した際、自主的に解決できない生徒が多い。また、見て見ぬふりをするなど、関わりを持たないようにする生徒もいる。生徒が主体的に考え行動できる機会を増やし、自主的に行動できる集団になるよう努力していきたい。
- ・今年度は生徒が提案・企画・運営したクリスマス会を実施することができたが、全体的に生徒から発信して行うことは少ない。今後、生徒から「こんなことやってみたい」といった声が上がりと、教員がしっかりとバックアップして取り組めるような活動が広がると良い。また、生徒が主体的に活動する場面では、自由にさせるだけでなく、粘り強く話を重ねていき、よりよい方向へ生徒・教員が作り上げていけるような活動になるとよい。
- ・交通ルール厳守の意識を自覚させる。中でも事故につながる並進について、指導の徹底を図る。（街頭指導、PTA活動、交通教室の充実、下校指導など）
- ・SNS などネットトラブルについて、非行防止教室などを繰り返し行い危険性を周知し、未然防止のため家庭との連携を図る。保護者対象のネットモラルの研修も実施する必要がある。
- ・共通理解・同一歩調・各学年団の連携について、より一層充実させていく必要がある。
- ・学校全体で円滑な人間関係を形成できるよう、学級での集団作りの活動や、行事におけるクラスが団結して達成感が感じられる活動を充実させる。

(2) 学力向上

①授業の改善

- ・『主体的に「学ぶ」生徒を育む授業づくり』に向けて改善を行っている。
学習規律の徹底、家庭学習の充実に向けた取組を行った。
- (ア) ①落ち着いた学習環境、②授業改善、③家庭学習の充実、を重点に学力向上に向け取り組んでいる。
- (イ) 集中力を欠く生徒、忘れ物が多い生徒に対して、家庭と協力しながら指導を継続している。
- (ウ) 授業の質の改善については、校内研修・小中合同研修会・美作市授業改革研究会などを通して取り組んでいるが、公開授業はまだ十分に実施できていない。また、家庭学習の在り方について協議し、「自主学習プリント」を活用することで、家庭学習の定着を図っている。
- (エ) 各教科の授業において、「めあて」を掲示し、最後に「まとめ」「振り返り」に取り組むことで、生徒に学んだことが自覚できるよう工夫している。タブレットなどのICT機器の活用やグループワークを取り入れるなど授業展開を工夫している。12月実施のアンケートでは、「授業がわかりやすい」と答えている生徒は75%(-2%)となっており、まだまだ改善の必要がある。1月に実施のアンケートで、「振り返りでは『疑問に残ったこと』『もっと学びたいこと』を確認している」と答えている生徒は、75%(8月+6%)となっており、学びの成果を実感し、自ら課題を見つけ解決しようとする成果が少しずつ現れてきていると思われる。「毎日家庭学習に取り組んでいる」生徒は66%(-1%)であり、今後も保護者と協力して家庭学習の充実を推進していく必要がある。
- (オ) 学習環境の面では、朝読書に取り組み、全体として落ち着いた1日のスタートがきれるようになってきている。
- (カ) 基礎学力の定着を図るために、毎日10分間の補充学習に取り組んでいる。
- (キ) 年間指導計画にそって進路指導を行っている。「進路や生き方について学ぶ機会があり、学習した内容は大切だと思う」生徒は90%(±0%)となっている。引き続き、キャリアパスポートなども活用し、希望進路の実現に向けた情報提供を行っていきたい。
- (ク) 年間授業時数は、夏季休業中の登校日の設定、週30時間の取組により、時間の確保に努めている。

②学力調査の結果

- ・全国学力学習状況調査、県学力学習状況調査の結果を考察し、改善プランを立て取り組んでいる。
3年生の全国学力調査では、国語・数学・理科とも全国平均を下回っている。数学と理科の正答率は5割を下回っている。
2年生の県学力調査では、国語・数学・英語全てで県平均を下回っている。
1年生の県学力調査では、国語・数学ともに県平均を下回っている。

【今後の取組】

- ・「授業規律の徹底」を柱に、『主体的に「学ぶ」生徒を育む授業づくり』を意識しながら、さらなる授業改善に取り組む。また、小中で連携して、家庭学習の習慣化の取組を強化していく必要がある。
- ・学習支援ボランティアの方々には、コロナ禍を境に依頼できておらず、新規ボランティアの開拓も難しい状況である。今年度は教職員のみで「放課後教室」や夏休みの「補充教室」の指導にあたっている。今後、学生ボランティアの協力をあおいで、学力向上のみならず進路に対する雰囲気作りという点でも成果を上げていきたい。
- ・「わからないことに対する手立て」については、各学年とも放課後の質問教室、放課後教室(数学・英語)や朝学習などの取組を行った。放課後教室では、課題の選択制、習熟度別の対応など、生徒のモデルステップの手助けとなる取組を実践した。今後も継続して行っていく。
- ・家庭学習の充実に向け、全学年で行っている「自主学習プリント」の取組も定着し、各学年や教科において、内容についての評価などもフィードバックしている。今後、特に授業と家庭学習の連動を意識し、「予習課題・復習課題」を実施し、子どもの意欲向上につなげていきたい。来年度以降も全校で行っていく。

(3) 特色と魅力のある教育活動

○特色と魅力のある教育活動

・学校行事、生徒会活動、部活動、地域と連携した教育活動をいろいろと工夫している。生徒の自主性・主体性を培うとともに、達成感・成就感を体験させることを目標に取り組んだ。

(ア) 「学校行事や委員会活動などは学校生活をより楽しく豊かにするために役立っている」は生徒74%(-4%)、保護者87%(+1%)となっている。学校全体が落ち着いてきている中で、ボランティア生徒による活動が増加し、清掃活動や有志実行委員による会の企画・運営など、学校を盛り上げようとする動きが定着しつつある。今年度は延べ580人の生徒が有志の活動に参加した。今後、行事だけでなく日常生活の様々な活動においても、生徒が自主的に活動していけるような工夫が必要である。

(イ) 「部活動(社会体育)に積極的に取り組んでいる」生徒は82%(-2%)となっている。今年度も未だコロナ禍ではあるが、大会や発表会等は有観客の本来の形に戻りつつある。部活動が楽しみという生徒も多く、学校生活の励みになる活動になるよう、今後も感染対策を徹底しながら活動していきたい。

【今後の取組】

- ・体育祭、合唱祭は、比較的良好な取組と評価されている。毎年検討をし、さらなる改善に取り組む。
- ・各行事についてコロナの状況も考慮して検討を重ねながら、達成感、成就感を感じる生徒が増えるように、さらに改善・充実させていきたい。
- ・「周りから愛され応援される学校」をスローガンに掲げる生徒会を中心に、有志による活動を今後も継続させ、委員会などに所属していない多くの生徒が、当事者として達成感や成就感を体験できる活動を定着させていきたい。
- ・生徒数を考慮した部活動の設置数についても、部活動の地域移行の動きを注視しつつ、将来を見据えた検討をしていく必要がある。

(4) 学校運営組織の機動化

①学校運営組織

・校務分掌の機動化を図るため、その分掌の意義と役割、担当者の責任を明確にして活動することを目標とした。

(ア) 各分掌とも機能し、生徒指導・いじめ未然防止委員会、不登校対策委員会、特別支援推進委員会などの常設委員会や体育祭実行委員会などの臨時委員会も機能することができている。

②危機管理

・生徒の安全・安心を確保するための取組を行う。

(ア) アンケートを見ると、「事故や災害などから生命を守るために、どのように行動すればよいか知っている」は生徒82%(-1%)、保護者78%(-2%)といった回答である。今後も新型コロナウイルス感染症の対策としてマスク着用や消毒、換気などを徹底し、もしものときに自分で考えて行動できるように、安全教育をさらに進める必要がある。

【今後の取組】

- ・各分掌や委員会の機動化を推し進めることは学校運営の活性化に必要不可欠である。さらに、自己評価アンケートや中間総括も実施し、分掌内だけの反省で終わらず横の連携もできるように調整する必要がある。
- ・毎年の反省をもとに、分掌表の見直し(分掌の統合など)をする必要がある。
- ・本年度も、地震と火災の避難訓練を実施した。火災については、5分以内に集合できるなどの成果があった。しかし、真剣味が欠ける生徒がいたことも事実である。
- ・安全・安心を確保するため、不審者対策の訓練は必要である。
- ・生徒に対する心肺蘇生法などの救急救命法は、保健体育の授業として継続して取り組む。

(5) 開かれた学校づくり

○開かれた学校づくり

・地域に親しまれ、信頼される学校づくりを目指して努力した。

(ア) 学校を開くという面では、授業参観・フリー参観・学級懇談会・学年懇談会・土曜日授業などを設定した。新型コロナウイルスの影響で学年レクは実施せず、体育祭や合唱祭は延期して実施した。来年度も今年度同様に計画をしている。地域や保護者の方に学校に足を運んでもらう機会を増やしていきたい。

- (イ) 保護者との信頼関係という点では、「子どもの気持ちを理解しようと努め、励ましてくれる」は75% (+3%) で昨年度とほぼ変わっていない。学級通信の発行や学校メールを利用した家庭へのこまめな連絡などを通して意思の疎通を図り、継続して信頼関係づくりを進めていきたい。
- (ウ) 今年度もイキイキ応援団による「放課後教室」の学習支援は実施できなかったが、「お鍋の会」は引き続き実施することができた。生徒会スローガンにもあるように、学校を支援するボランティアとして指導して下さる方々への感謝の気持ちを活動の中で伝えていきたい。「地域に親しまれ、信頼される学校」に向けて今後も連携を深めていきたい。
- (エ) 民生委員、警察協助手員、サポートセンター、警察署、PTAの方々によるあいさつ運動、街頭補導、校内巡回を設定した。多くの方に関わっていただきながら、安心・安全な学校づくりができた。

【今後の取組】

- ・信頼関係を築くために、さらに細やかに気を配っていく必要がある。
- ・保護者の要望により配布している月別行事予定は、今後も継続していく。
- ・学習支援ボランティア（家庭科）の支援による実習は、生徒達の進路実現や安全、コミュニケーション力の向上に大きく貢献してきた。これからも、開かれた学校づくりを常に意識して推進していきたい。

II. 美作中学校イキイキ応援団（学校関係者評価委員）

里見力（会長）	阿部芳孝（学校評議員）
木村知奈美（学校評議員）	綱澤修二（学校評議員）
寺元恵子（主任児童委員）	中村一富（美作市人権教育推進委員会委員）
平田克哉（青少年育成センター職員）	長瀬諭司（元本校職員）
鳥越重一（地域支援コーディネーター）	尾高弘之（元PTA会長）
小山修（元PTA会長）	名部好弘（元PTA会長）
檜尾泰幸（PTA会長）	津田由紀（PTA副会長）
谷口孝幸（PTA副会長）	奥山賀崇（PTA副会長）
西村吉正（PTA副会長）	中川昌子（PTA副会長）
坂本昌子（PTA副会長）	山下直之（PTA監事）
橋本博正（PTA監事）	